金剛寳戒寺便

令和二年九月一日発行　第七十八号
https://www.houkaiji.jp

檀信徒の皆さま残暑お見舞い申し上げます。月参りに伺うと、お寺は涼しくて良いでしょ？と聞かれることがありますが、やはり夏は暑いです。ただ緑が周りに多く秋の気配を早く感じる事は出来ているかもしれません。特に早朝の境内は気持ちが洗われる場所です。

お寺の年中行事で最も忙しいのがお盆です。今年は新型コロナウイルスの影響もありお参りが出来るかを心配していたのですが、例年通り三名のお坊さんにお手伝いを頂き無事に終わることが出来ました。盂蘭盆会のルーツはお施餓鬼供養にあることを以前にも書いたことがあります。お釈迦様の十大弟子である目連尊者が亡くなった母親を千里眼で探すと餓鬼道に堕ち、腹をすかせ苦しんでおり、その母親を救済するために行った供養が施餓鬼供養であると言われています。

この様なお話をすると「目連尊者の様な立派なお坊さんを生んだお母さんでさえ餓鬼の世界に堕ちるのですか？」といった質問を受けることがあります。目連尊者の母親は優秀な我が子への愛情が深すぎて、他者への施しが出来なかった為に餓鬼道に堕ちたと言われています。決して現代のモンスターペアレントの様ではなかったと思うのですが、溺愛という言葉が有るように心身の欲求や執着ばかりではなく、見解や理想までもが渇愛に含まれることを教えてくれています。

私が高野山で修行させて頂いていた時は毎晩お施餓鬼供養をしていました。当時はその様な深い意味があることも知りませんでしたが毎日が新しい経験と驚きでした。一般の大学を出て直ぐに専修学院という修行場に入りました。肉魚やお酒などはもちろん禁止。外出は週に一回一時間、新聞は一日古いものを読むことが出来ていましたが、お盆明けから年末にかけての修行期間中は外出にはもちろん新聞や電話、手紙も禁止されていました。

それまでの学校生活では無駄なく早く物事を解決し、分からない事があれば質問する事が良いことと教えられていた様な気がしていました。ところが専修学院で最初に言われたことは「門主様には決して質問してはいけないし、間違いなどが有っても指摘してはいけない」との事でした。また何かにつけて待ち時間が多く何も出来ない、何もしない。一見、無駄と思える時間が非常に多かった事を覚えています。そんな時、山内のお寺で住み込みの生活をしてきた同僚に無駄の話しすると「仕方ないやん」との返事があっけらかんと返ってきたのに驚いたことを鮮明に記憶しています。

それまでは素早く無駄なく答えを導き出すことが有能だと思い込んでいました。しかし修行場では訳が分からなくても、解決しなくても持ちこたえていく事の大切さを知りました。その様な考え方は現代的ではなく、生産的でないと言われるかもしれませんが、今の学校（社会）では解決することの大切さを教えていても、解決できない事と向き合うすべ（術）の大切さを説いていないと思うのです。

お釈迦さまの教えにある「一切皆苦」（世の中は思うようにならない）は決して消極的な考え方でなは無く、このコロナ禍においてなかなか先の見通せない時だからこそ、より生きてくる教えではないでしょうか？

短い人生を振り返ってみても時間が解決してくれている事は少なくありません。考えてみるとウイルスに人類が負けたと言う歴史は有りません。今のように科学が進んでいなかった時代ですら人間は生き残ってきました。アフターコロナではこれまでと全く違う生活様式になると言われていますが、私はその様には思っていません。何故なら会食も気楽に出来ない社会など単純に楽しくないからです。楽しみや欲望にこそ進歩の源があり、とても弱いヒトが人間として営み、発展してきました。しかしそれらを決めていくのも私たちであることを忘れてはいけないと思います。

大師号下賜千百年記念法要を今秋高野山にて行うにあたり般若心経のお写経を十部程度ご奉納いたします。希望者の方はお寺までお問い合わせ下さい。

合掌